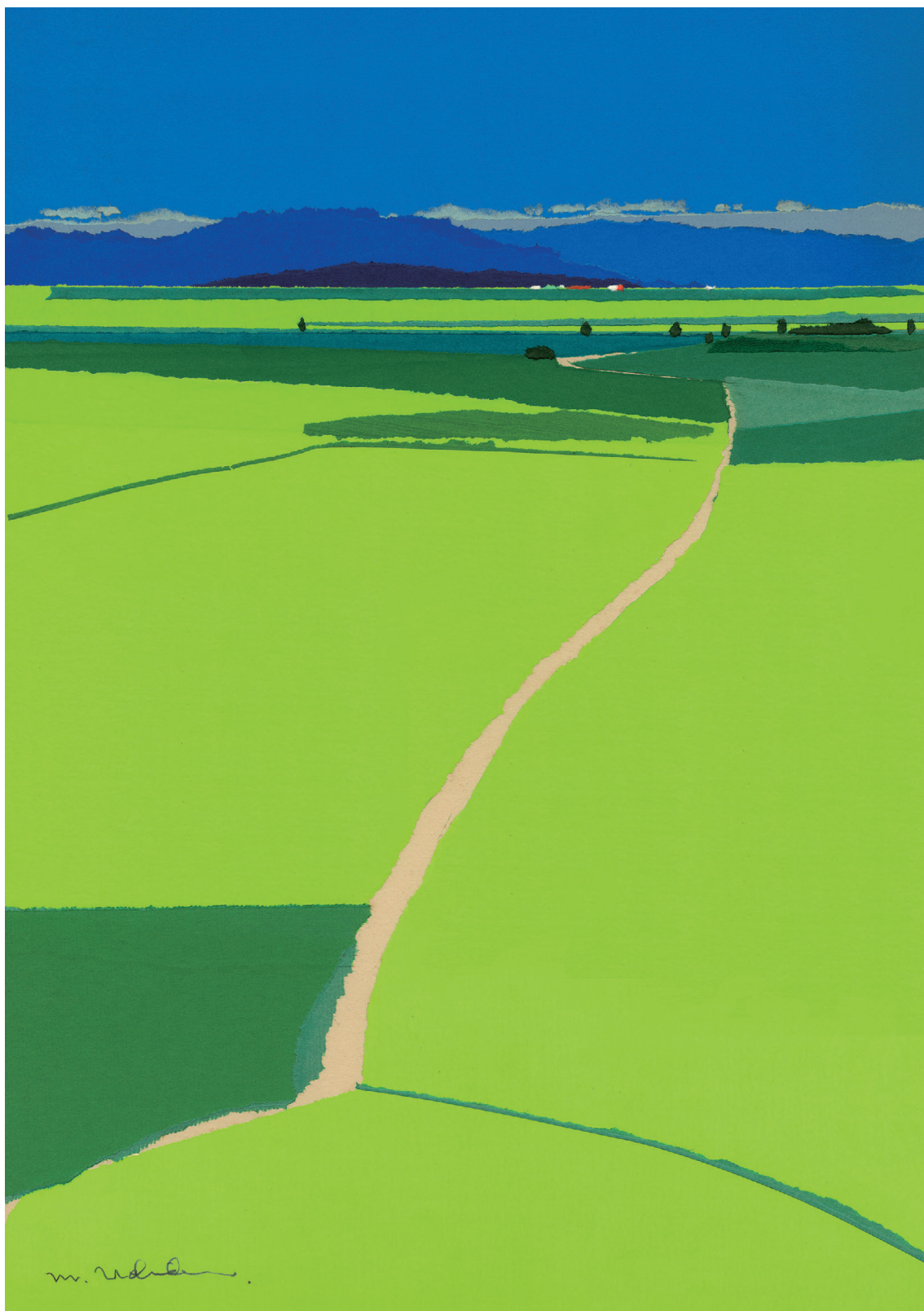


日本メックス株式会社



コーポレートレポート 2021

Corporate Report



より良い未来を、見据える

今日も、明日も、絶え間なく。日常とビジネスをインフラで支える。

私たちは建物のスペシャリストとして、持続可能な未来の実現へと、日々挑戦する経営を続けています。

企業理念

建物とともに生きる

建物を知り、建物を大切にし、建物をいかすことにより、持続可能な社会の発展に貢献します。

経営方針

お客様の期待を超える価値の提供

お客様によって異なる様々なご要望、ご期待を理解し、深掘りし、与えられた条件のもと知恵を絞って、期待を超える価値を提供します。

公正な企業風土と躍動感ある現場づくり

法令や社内規定を守り、適時かつ的確に情報を伝え、誠実で分け隔てが無い社内文化を醸成します。

また、日本メックスに関わる全ての従業員が元気で、明るく、意欲的に仕事に従事する魅力ある職場・現場をつくりまします。

未来を創る進化と革新

加速度的に変化する事業環境に対応しつつ会社の拡大発展を図るため、ビジネスや業務手法、個々人の能力の進化と、経営基盤や技術などの革新を弛まず進めます。

社名とコーポレートマーク

MECCSの頭文字「M」のイメージを基本として、社名に込められた企業姿勢をダイナミックに表現したものです。4つの丸は、頭文字以降の四文字を象徴し、会社が将来発展する可能性と、はつらつとした躍動感を軽やかに表現しています。

また、お客様へサービスする心、社会に貢献する心を、人のシルエットで表現しています。

M: MAINTENANCE
E: ENGINEERING
C: CONSULTATION
C: CONSTRUCTION
S: SERVICE



一人ひとりが、行動する

全員で考える。全員で挑戦する。私たちは高い知見と規範意識を誇りにしています。
お客様や社会の声に応え、超えてゆくため、全ての従業員が、日々、力を結集します。

行動指針

私たちは「まじめ」を原点とします

社会に対し、お客様に対し、取引先に対し、会社に対し、そして自分に対して「まじめ」に取り組むことを行動の原点とします。

私たちは仲間を大切にします

当社の事業に関わる全ての取引先、グループ会社、従業員などの関係する「仲間」を大切にします。

私たちは挑戦しやり遂げます

従来からの慣例や常識にとらわれずに、技術やビジネスあるいは業務の変革に挑戦しつづけます。
また、決めた仕事は責任をもってやり遂げます。

日本メックスグループ CSR 基本方針

私たちは、企業理念「建物とともに生きる」に基づき、ステークホルダーの皆様との健全な関係を維持しながら、法令を遵守し、高い倫理感を持った事業活動を通じて、社会の課題解決と当社の成長を目指して、持続可能な社会の発展に貢献します。

お客様に対して

お客様の要望に応える良質なサービスを提供し、お客様の安心・安全・快適な環境を実現します。
また、品質マネジメントを推進して継続的な品質向上に取り組み、より高度なお客様満足の実現を目指します。

取引先に対して

関係法令の遵守、適正な契約の締結など、公正なルールに則った健全な取引を行い、取引先との相互の発展を目指します。

株主に対して

株主の利益のために、長期安定的な成長を通じた企業価値の向上を目指します。

従業員に対して

人権を守り、社員の多様性・人格・個性を尊重し、生き生きと安全かつ健全で働くことができる職場環境づくりに努めます。
また、高度な知識と技術を持って能力を発揮し活躍できる人材の育成に取り組みます。

地球環境に対して

建物の長寿命化・省エネルギー化等の地球環境保護に資する事業活動を推進します。
また、環境マネジメントを推進して、環境課題への的確な対応に取り組みます。

地域社会に対して

地域社会のより良い未来づくりのため、地域の健全な発展に資する活動に参加・協力し、良好な関係を築きます。

以上を推進するため、CSR マネジメント体制を確立し、適正な組織統治を実践します。

目次

03	トップメッセージ	11	日本メックスのCSR戦略
05	社会の要望に応える経営	13	CSRへの取り組み
07	社会の礎を支える事業	21	会社情報
09	価値創造の仕組みとオンリーワンの強み		

より良い社会の実現に、貢献し続ける



代表取締役社長 うすい さとし
臼井 賢

社会とともに、試練に立ち向かう

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行が続いています。り患された方、および、そのご関係者の方々に、心よりお見舞いを申し上げます。全世界が対応に力を合わせる中、私たち日本メックスも、細心の注意を払いつつ事業にあたっています。職場での安全衛生の周知はもちろん、お客様から管理を依頼いただいている施設での対策を徹底するなど、沈静化へと社をあげて協力し、社会の皆様とともにこの未曾有の試練に立ち向かっていきます。

社会課題を見据え、行動する

人類共通の17の社会課題を解決するべく、国や組織の枠を超え行動する、国連で採択された国際目標「持続可能な開発目標（SDGs）」は、達成年限2030年まで10年を切りました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響も相まって、目標達成への道のりは一層厳しいものとなっています。新たな国連スローガン「行動の10年」のもと、世界的に行動が加速する現在、テレビや公共施設、ビジネスの場など、SDGsが耳目にあがらない日が少なくなったと感じます。日本政府や各種経済団体による推進姿勢も鮮明となっています。



私たち日本メックスはNTTファシリティーズグループへの加入を期に、昨年よりCSR戦略の強化・再構築を続けていますが、その際、「SDGsへの貢献」を「NTTグループのCSR重要課題(マテリアリティ)」と併せて加味し、目標達成への貢献を一層推進しています。自社の強みを発揮できる貢献とは何か、そして、事業で徹底すべき責任とは何か。社外専門家の助言を踏まえ、また国連による実践指針書類を参考にしつつ、全員で考え行動する企業となるべく、日々挑戦を続ける私たちを、当レポートで実感いただければ嬉しく思います。

お客様、ともに働く皆様の、安全と安心、快適を徹底する

持続可能(サステナブル)な社会の実現に向けた施策強化にあたり、私たちが重視していることが、2つあります。1つ目は、お客様、そしてともに働く皆様の、安全と安心、快適を徹底することです。私たちの仕事は建物づくりであり、安全の徹底と利便性の向上は、事業の根幹に関わる普遍の使命です。またその徹底は、新型コロナウイルス感染症対策、そしてSDGsへの貢献といった新たな課題解決にも直結します。このような問題意識のもと、従来にも増して、職場での安全衛生や、高品質な建物づくり、管理施設の管理にまい進していきます。

NTTグループの一員として、取り組みを加速する

2つ目は、NTTファシリティーズ、さらにはNTTグループとの連携・シナジーです。今やサステナビリティは企業戦略の中核であり、取引先や投資家、公共セクターといったシビアなステークホルダーからの視座も一層強まっています。いうまでもなく、企業が求められる社会的責任はサプライチェーンと不可分であり、グループ連携でのマテリアリティ遂行は必須となっています。このような状況を踏まえ、CSR戦略の再構築は、NTTのCSRテーマ「4つのコミュニケーション」に沿う形で進行了。2020年度を通じ検討を進め、このたび公表します新CSR活動体系のもと、今後はNTTファシリティーズおよびNTTアーバンソリューションズグループとの戦略的な連携を強化していきます。

日本メックスはこれからも、「建物とともに生きる」を合言葉に、持続可能な社会、より良い未来の実現に、貢献し続けます。ステークホルダーの皆様には、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

白井 賢

社会の要望に応える経営

当社は1972年4月25日、日本電信電話公社の著しい発展に伴い、建築物の諸機能を十分に理解し、建物保全業務を円滑かつ効率的に実施しうる専門会社「株式会社日本総合メンテナンス」として設立。その後、1992年4月、創立20周年を期に、来るべき新時代の新世紀に向けてさらなる飛躍を願い、社名を現在の「日本メックス株式会社」に改めました。

2020年1月、NTTファシリティーズグループの一員となり、新たなステージを迎えた日本メックスですが、企業理念「建物とともに生きる」のもと、初心を忘れず、社会の発展と企業としての社会的責任を果たすべく、グループをあげて努めていきます。

会社沿革

1975年2月
日本団体生命仙台ビル：
常駐保守受注（民間第1号）

1974年4月
岡山出張所開設（第1号）

1972年
簡易工事初受注
「武蔵野通研」
（現：武蔵野研究所）

1972年度（第1期末）
支店 6
営業所 5
メックスセンタ 18


建設業許可取得
（建築一式工事・大工・
電気・管・消防設備ほか）

1978年10月16日
「大手町総合ビル足場倒壊事故」発生
この10月16日を
「日本メックス安全の日」に制定

1978年3月
防災工事（第1号）
品川電話局防災工事完成

1986年
空調工事を初受注

1992年
創立20周年



1989年7月
μSATシステム初販売
（現・MECCS NET 24センタ2017年6月新スタート）

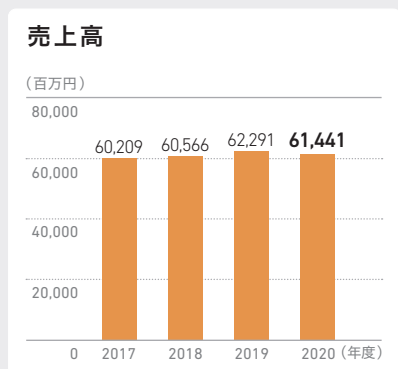
1972	1980	1985	1990	1995
創業期 1972-76年	拡張期 1977-84年	躍進期 1985-91年	充実期 1992-98年	
日本で初めて 「保守」と「工事」を総合的 に行った会社	経験・ノウハウを蓄積しながら、 支店や出張所の拡張に励む	職場環境の改善により、生産性の向上を 図り、会社資本を蓄積	日本メックスに社名は変わり、 社章・社旗・ユニフォームを一新、 新しいCIを導入	

日本総合メンテナンス

1976年 株式会社ニッソウ設立	1977年 株式会社オネスト（現・株式会社メックスサポート）設立	1978年 株式会社オネスト（現・株式会社メックスサポート）設立	1979年 株式会社札幌総設立	1988年 現・株式会社メックス テクノ西日本設立	1991年 現・株式会社メックステクノ中央設立	1992年 現・株式会社メックステクノ東海 設立	1993年 メックスサービス 株式会社設立	1996年 株式会社ゼネラル ボーサイ子会社化	1998年 現・株式会社メックス テクノ中国設立 現・株式会社メックス テクノ九州設立
----------------------------	--	--	---------------------------	--	-----------------------------------	---------------------------------------	------------------------------------	--------------------------------------	--

財務・非財務ハイライト

※日本メックス株式会社単体



2000年12月
「ISO9001」認証取得 (首都圏)

2003年9月
MEGRES (屋上緑化建築技術) が (財) 日本建築センターの新建築技術認定 (第1号)

2004年4月
「ISO14001」認証取得 (首都圏他)

2008年8月
マンホール補強構造特許登録

2008年12月
「ISO9001/14001」認証取得 (認証拡大: 全国展開)

2014年1月
SUPER IMEC 導入
維持管理サービス
「バリューアップオペレーション&メンテナンス」を支えるICTシステム

2016年7月
ISMS (情報セキュリティマネジメントシステム) 「ISO/IEC27001」認証取得

2016年10月
OTC (オペレーショントレーニングセンタ) リニューアル

2017年4月
指定管理者事業の受注拡大に向けた推進PT設置
2005年12月、東京都中央区の4つの区民館 (浜町・久松町・堀留・新場橋) の受託開始

2018年1月
「企業理念」「経営方針」「行動指針」を制定

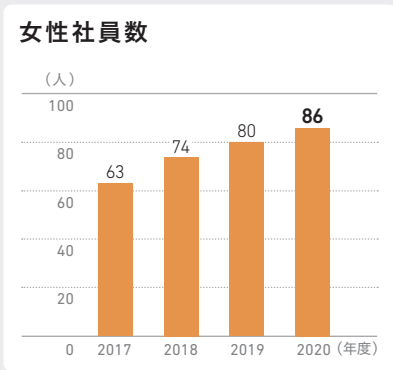
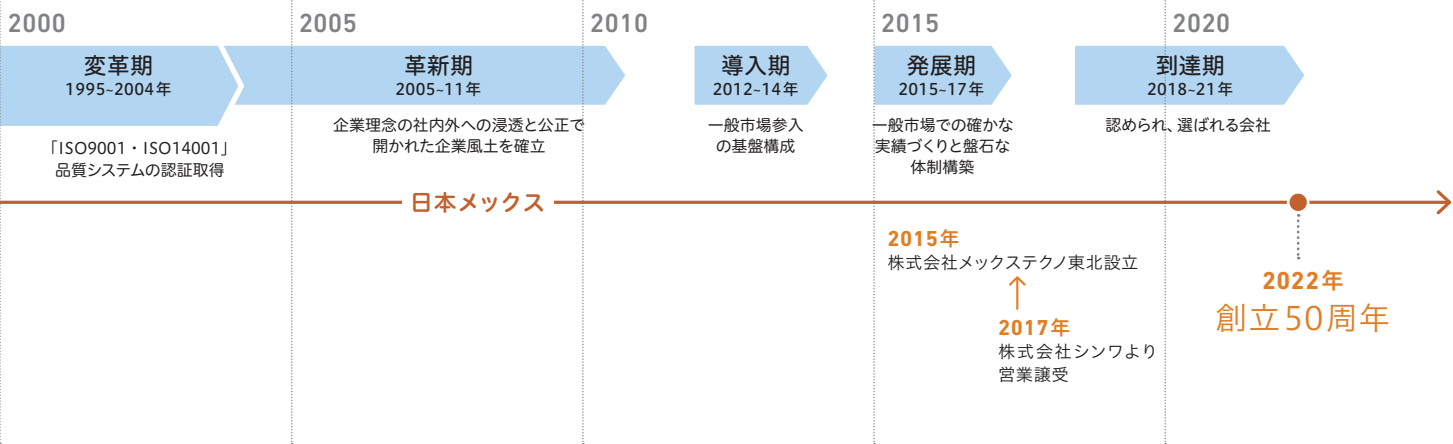
2018年5月
STC (セーフティトレーニングセンタ) を開設

2020年1月
NTTファシリティーズの100%子会社化

2021年4月
UB事業推進PT設置

1999年以降、当社を取り巻く市場環境の大きな変化に対応すべく、全社員参加の営業キャンペーンを全国展開
2002年10月にスタートした第1回を皮切りに2006年8月まで計5回開催

ビジョン50
日本一の「建物維持管理・保全工事」会社を目指す



建物とともに 生きる

より快適で、豊かな暮らしのために、
今日も街のどこかで、建物や施設をつくり、
守り続けています。

日本メックスは、「建物維持管理」と「建物保
全工事」の両方に精通したプロフェッショナル
ならではのサービスで、お客様の資産価値の最
大化に取り組みます。

日常的に維持管理より得られたデータを
ベースに「調査・分析・診断」し、中長期整備計
画やエネルギーコンサルティングを行い、その
対策として建物保全工事を進めていくという一
連のワンストップサービスです。

オフィス、観光施設で

オフィスビルやホテルなどの大規模施設には、毎日、多くの
利用者が訪れます。私たちは快適性と機能性、経済性
と環境性を兼ね備えたビ
ルを提案し、その改修か
ら施設管理までを一手に
担うことで、お客様の資
産価値を守り続けます。



公共施設で

郵便局や病院、取引所などの公共機関には、様々
な特殊機器も配置されます。強靱化、ICT化の
要望が著しい公共インフラを
常に稼働させ、かつ利用者
に安心・便利を提供するため、私
たちならではの建築・管理・
運用ノウハウが発揮されます。



事業概要

建物維持管理

建物や設備の監視・点検業務を通して、利用者様に快適な環
境と安心をお届けします。電気や空調設備、上下水などの遠隔
監視や24時間365日受付など、お客様のニーズに合わせた総合
的なサービスを提供します。



電気設備



MECCS NET24センター

建物保全工事

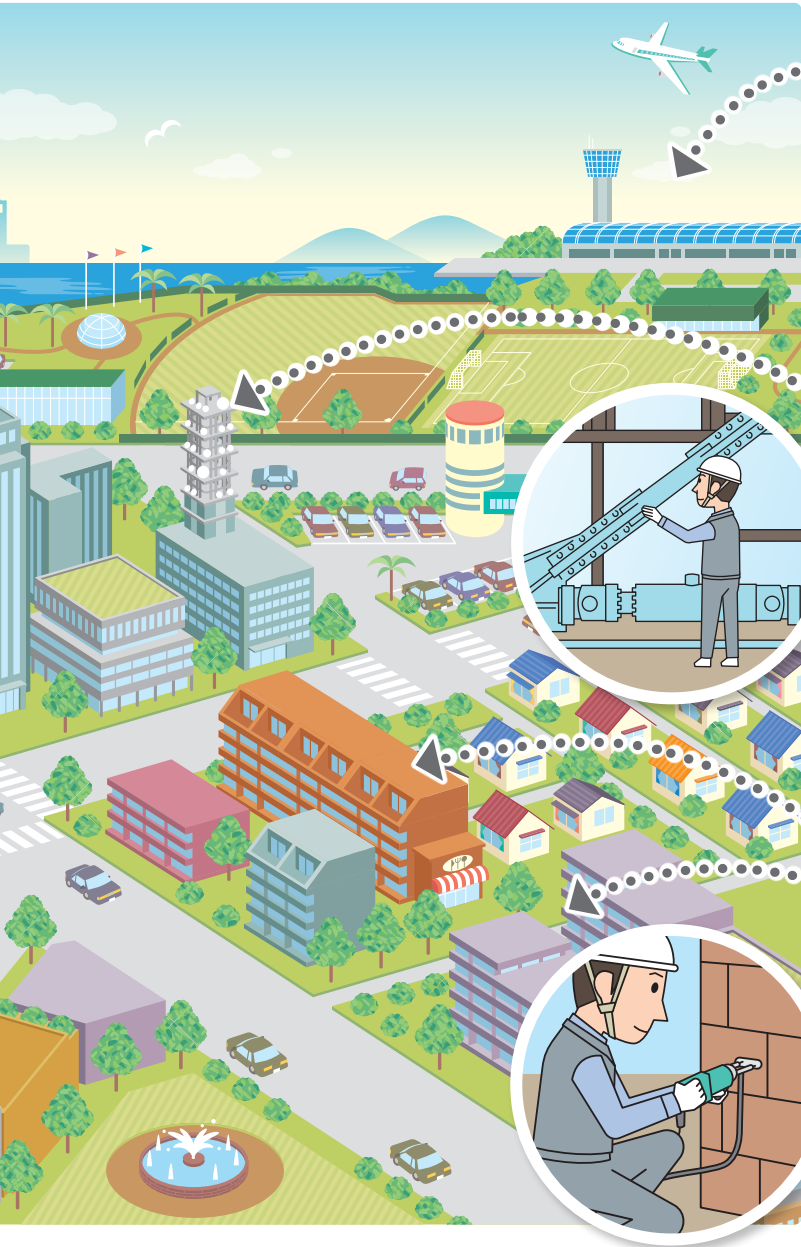
高い技術と安全性の確保を必要とするNTTの通信用建物を
はじめ、病院・オフィスなど各種施設の修繕・改修工事を行って
います。特に、通信機械など重要機械が稼働している建物で、
機械や事業活動を止めることなく行う建築・設備改修工事（居た
まま工事）は得意とする分野です。



屋上防水工事



耐震補強工事



空港の安全を守る

空港の運用施設は航空機の離着陸の命綱。航空機の円滑な運用やお客様をはじめ空港で働く全ての人の安全を守る大切な役割を当社は担っています。



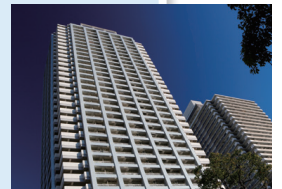
通信インフラで

建築業界でも難しいとされる、通信用建物やデータセンタなどの重要設備が稼働している建物での建築・設備改修工事は、NTTグループでの実績があり、当社が最も得意とする分野です。



集合住宅で

日々の生活の場には、常に「安心・安全・快適」が求められます。大規模施設を支える実績を基に、お客様の住環境を把握しメンテナンスを実施する私たちには、適切なタイミングでの修繕や設備更新のご提案が可能です。



建物 LC コンサル

建物のライフサイクル(LC)を考慮し必要な時期に必要な整備を行うため、建物の調査・診断による中長期整備計画を策定します。これは、外壁や屋上の外回りから、内装、空調機などの各種設備機器の更新・更改計画です。また、エネルギー管理や防火・防災・耐震などの建物健全性評価による分析・提案も行います。



外壁調査



コンサルティング

PPP事業

各地のスポーツ施設や区民館など公共施設の管理業務を通して、地域の皆様に愛される施設運営をお手伝いします。

道の駅や日帰り温泉施設など、一部の施設では運営業務も手掛けています。



蘇我スポーツ公園



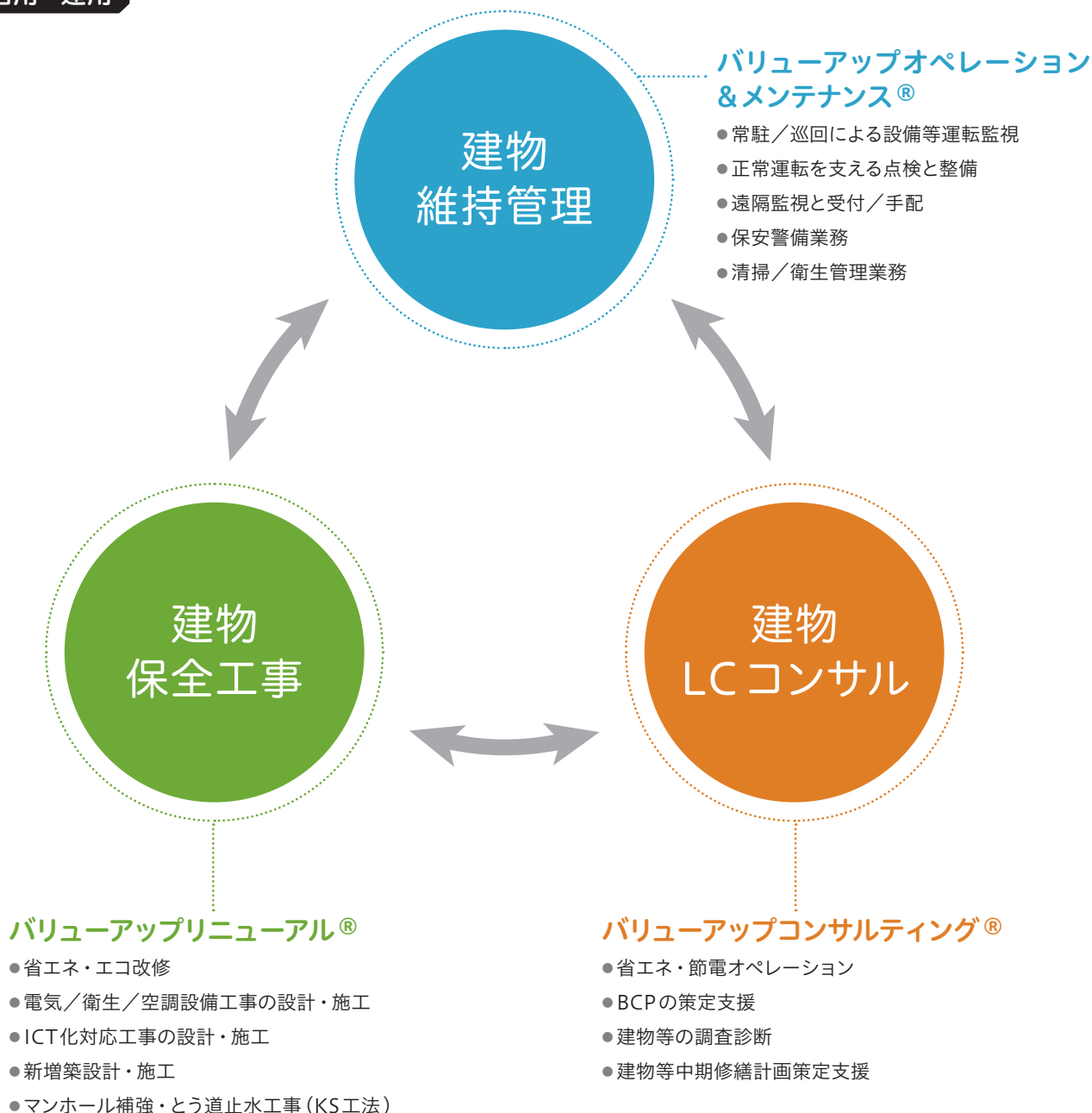
名水はだの富士見の湯

バリューアップのワンストップサービス

お客様建物の資産価値の継続的向上に向けて

バリューアップループ

活用・運用



※「バリューアップオペレーション&メンテナンス」、「バリューアップコンサルティング」、「バリューアップリニューアル」は当社の登録商標です。

日本メックスの強み

建物を知り、建物を大切にし、建物をいかすことにより、 持続可能な社会の発展に貢献

NTT通信インフラを支えてきた 高品質な維持管理

NTTグループ各社の通信ビルやデータセンタなどの「高機能ビル」を長期間にわたって支えてきた高品質な「建物維持管理」、豊富な施工実績に基づく技術力・ノウハウを活用した「建物保全工事」の2つの事業を軸に、建物の安心・安全・快適を支えています。

人や設備を「居たまま」実施する 保全工事技術

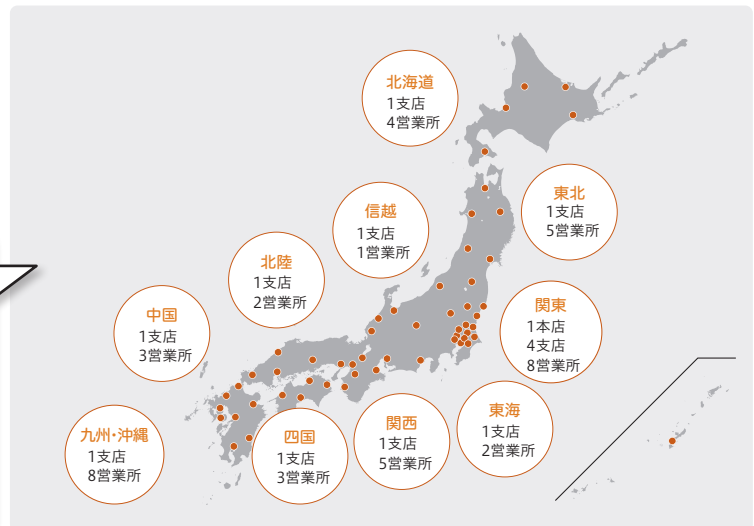
NTTグループの通信ビル、オフィスビル、社宅に対する豊富な工事経験・実績から、“人”や“設備”を「居たまま」、「動かしたまま」で、安全に確実に工事を実施する高い施工技術を持っています。

全国サービス拠点

全国に直営180、協力会社1,200以上のサービス拠点をもち、そのネットワークを最大限に活かし、迅速かつ細やかなサービスを提供します。

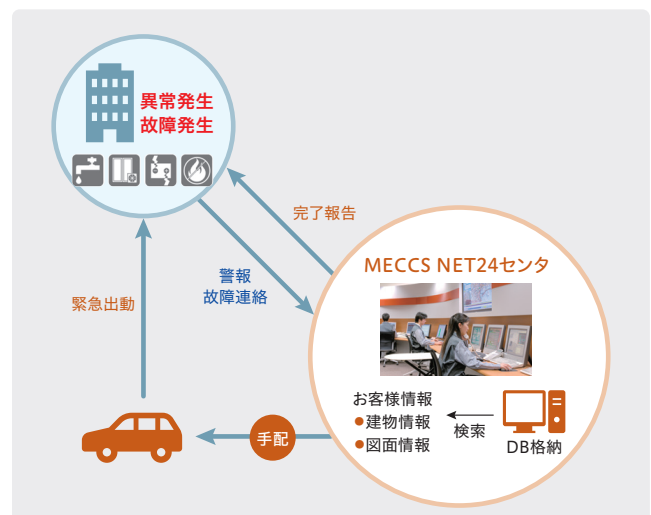
全国の各エリアが連携し、 多様な建物をカバー

NTT建物：7,300カ所
 オフィスビル：1,000カ所
 集合住宅：2,000カ所
 その他：60カ所
 (病院、ホテル、空港、公共施設)



24時間365日対応可能な 「MECCS NET24センタ」

複数ビルに対して、遠隔でリアルタイムに設備異常を監視するサービスおよび緊急受付手配サービスを24時間365日提供し、様々なトラブルにも迅速に対応し、お客様に安心・安全をお届けしています。



新たなCSR戦略の策定

日本メックスは2020年度、CSR戦略を見直し、新たな戦略体系として再構築しました。2021年4月に策定した新戦略は、NTTグループのマテリアリティ概念「4つのCSRテーマ」に即しつつ、日本メックスの事業特性やCSR活動経緯に沿ったものです。

NTTグループCSR憲章

NTTグループは、「NTTグループCSR憲章」を基本として、社会的課題の解決を通じた持続的な成長の実現に努めています。同憲章は、グループのあり方を表現した「CSRメッセージ」と、具体的な重点取り組み項目を示した4つの「CSRテーマ」から構成されており、グループ一体となって取り組んでいます。

NTTグループCSR憲章：https://www.ntt.co.jp/csr/groupcsr/csr_policy.html



策定の経緯

CSR活動に対するステークホルダーの要望は、日々進化を続けています。企業グループ横断でのマテリアリティ推進、ならびにSDGsへの具体的貢献の加速など、CSR重視企業は須らく考慮すべき世界的な潮流も数多く生まれています。

日本メックスも、NTTファシリティーズグループの一員となったことを機に、2020年3月よりCSR戦略再構築への協議を外部専門家も交え本格化し、これらを踏まえた新・CSR戦略を2021年4月に策定しました。今後は、NTTグループのCSR戦略の動向も随時踏まえつつ、一層の活動推進を図ります。

プロセス

- 2020年3月
従前からのCSR活動を踏まえつつ、マテリアリティの再構築に向けた検証を開始
結果、NTTグループのCSRテーマに沿った活動体系への進化を採用
 - 2020年12月
マテリアリティに即した、主要な活動骨子を特定
それぞれ、SDGs貢献への方法を、ターゲットレベルで特定
- 特に重視した視座：**
グローバル・レポートिंग・イニシアチブ (GRI)「GRIスタンダード」
「持続可能な開発目標 (SDGs)」および同実施ガイダンス群

策定に向け助言を得た専門家：
CSR学会「企業と社会フォーラム」プログラム委員 井爪 毅
- 2021年4月
KPIを含めた活動体系の実務レベル案を確定
 - 2021年7月
↓
社長および担当役員などの承認を経て、当レポート刊行をもって正式に公表・発効

日本メックス CSRテーマ

CSRテーマ1 人と社会のコミュニケーション

優先的に貢献を目指すSDGs



品質・革新の挑戦

●先進技術を活用し、顧客や社会の満足の高い社会インフラの実現に貢献します

取り組みの柱

- ▶高品質な建物ソリューションの提供
- ▶DX化の積極提案の推進
- ▶CSの継続的な改善

主なKPI

品質方針の全「建物づくり」への徹底、DX化推進案件、CS指数

CSRテーマ2 人と地球のコミュニケーション

優先的に貢献を目指すSDGs



環境経営の徹底

●自社の環境負荷軽減に取り組みます ●製品、サービスの環境性能を追求します

取り組みの柱

- ▶環境マネジメントシステム(EMS)の徹底
- ▶低・脱炭素化への取り組み
- ▶低排出、循環型事業の実現

主なKPI

ISO14001社員カバー率、エコ検定取得率、温室効果ガス排出量、自社建物の省エネ化(LED化率など)、再生可能エネルギー利用率、オフィス廃棄物排出量、事務用紙使用量、水資源使用量

CSRテーマ3 安心・安全なコミュニケーション

優先的に貢献を目指すSDGs



安心・安全の見守り

●社会インフラの24時間365日管理を通じ、社会のレジリエンスの担い手として貢献します

取り組みの柱

- ▶インフラの24時間365日管理(サービス提供体制)
- ▶自社のBCP、情報セキュリティの徹底

主なKPI

MECCS NET24センターでの入電後の手配30分以内実施率、全社BCP訓練回数、情報セキュリティ講習受講率、個人情報の漏洩件数

CSRテーマ4 チームNTTのコミュニケーション

優先的に貢献を目指すSDGs



人財との共栄

●社員、パートナー従業員の人権と多様性を尊重し、活かします

取り組みの柱

- ▶ダイバーシティ&インクルージョン
- ▶ディーセントワークと労働安全衛生
- ▶公正な処遇とキャリア開発

主なKPI

新卒・全従業員の女性比率、障がい者雇用率、労災指数、健康診断受診率、人権に関する違反件数、法規制違反件数、コンプライアンス研修受講率、一人当たり研修時間

CSRテーマ 1 人と社会のコミュニケーション

品質・革新の挑戦



なぜ重要か（社会の期待）

建物は人類の生活を支える基礎インフラの要です。文明の発展とともに進化を続ける建物。そこには、折々の人類の営みの課題や要望が込められてきました。

2000年代以降、人類社会は急速に変化を遂げています。様々な社会課題の顕在化と、ICTをはじめとする技術革新（イノベーション）の波は、建物の継続的な進化に対する社会の期待となって、日々高まっています。

日本メックスの取り組み

私たち日本メックスは、NTTグループの通信ビルやデータセンタといった通信インフラに加え、様々な社会インフラの確実な稼働を実現するため、その維持管理と保全工事をトータルに担ってきました。ICTとデジタル技術が社会に不可欠なものとなった現在、私たちもデジタルトランスフォーメーション（DX）の挑戦を加速。日々、先進的な技術を積極的に取り入れた高品質な建物づくりで、お客様ひいては社会の期待に応えます。

OUR CSR ACTION

取り組みの柱と優先的に貢献を目指すSDGs

- > 高品質な建物ソリューションの提供
- > DX化の積極提案の推進
- > CSの継続的な改善



Target 9.1

活動ハイライト CASE 01

地域発展に貢献する、先進的なインフラづくり

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう

SDG9 産業と技術革新の基盤をつくろう

強靱（レジリエント）な社会インフラを構築し、世界中の誰もが享受できる持続可能な産業発展を実現する。その確かな実践に向け、全世界で継続的なイノベーションを推進することを、SDG9は目指しています。特にすべての人がアクセスできる質の高いインフラを実現するためのイノベーションは、大きな課題であり、日本メックスのような建物づくりに従事する企業の貢献に高い期待が寄せられています。

成果事例

先進技術で文化財を守り、地域の賑わいに貢献する

— 平等院ミュージアム鳳翔館、空気調和機・加湿器改修プロジェクト

京都府宇治市、世界遺産「平等院」の寺院内にある鳳翔館は、宗教法人として日本初となる総合博物館（登録博物館）です。国宝の梵鐘や重要文化財の十一面観音菩薩立像などを収容する同館には、日本をはじめ、世界中より多くの人が訪れ、地域の賑わいにも貢献しています。日本メックスは従来より同館設備の点検保守に携わってきましたが、2020年に空調工事の改修を担いました。

貴重な文化財を万全の状態で見守り・展示し、次代へと受け継いでいくため、同館には最先端の設備・技術が必要とされますが、空調は特に重要な設備といえます。温度と湿度を最適に保つことは、文化財の維持・保全に大きく影響するからです。同時に博物館という性格上、展示エリアの快適性にも配慮が必要です。その実現に向け、改修プロジェクトでは、館内要所に配したセンサーと空調・加湿設備をICT技術で連携させる、きめ細かい制御を採用しました。

博物館に求められる品質・安全性・そして快適性の高次元な実現に向け、日本メックスは、保守点検業務での知見と最先端の技術力をワンストップで提供できる強みを発揮し、これからも地域の文化・経済拠点のサステナビリティに貢献していきます。

IMPACT
ON SDGs

日本メックスの目指す社会インパクト

- 高品質で先進的な地域インフラの実現
- 各地の経済・産業への貢献

CSRテーマ2 人と地球のコミュニケーション

環境経営の徹底



なぜ重要か（社会の期待）

世界各所での気温上昇に伴う異常気象や自然災害の激甚化、経済活動による廃棄物の発生と環境汚染、そして自然界の動植物の減少。社会の低・脱炭素化と循環型社会（サーキュラーエコノミー）の実現、生物多様性の保全を柱とする環境保護は今や世界共通の課題と認識されて取り組みが急がれています。国や組織の枠を超えた活動が加速する現在、企業には一層の率先的な行動が期待されています。

日本メックスの取り組み

私たち日本メックスは、建物の長寿命化・省エネルギー化などの地球環境保護に資する事業活動を推進してきました。なかでもデータセンタや通信ビルといった建物・エネルギー管理にシビアな建物の経験に根差した低炭素化技術は、施設に求められる効率性および快適性をバランスよく実現するノウハウの強みとなっています。その成果は商業施設や公共施設といった様々な大規模施設へと広がり続け、社会の低炭素化へと貢献しています。

OUR CSR ACTION

取り組みの柱と優先的に貢献を目指すSDGs

- ▶ 環境マネジメントシステムの徹底
- ▶ 低・脱炭素化への取り組み
- ▶ 低排出、循環型事業の実現

	Target 7.2, 7.3
	Target 12.2, 12.4, 12.5, 12.6
	Target 13.1

活動ハイライト CASE 02

事業を通じた、社会の低炭素化の促進

13 気候変動に
具体的な対策を

SDG13 気候変動に具体的な対策を

SDG13が早急な実現を目指す気候変動への適応と緩和は、世界共通の重要課題と認識されて久しいものの、依然明確な改善がみられていません。日本国内に目を向けても、2020年も異常気象や激甚な自然災害が記録され、各地で深刻な被害が発生しています。グローバルかつ早急な対応が望まれる中、日本政府も取り組みを強化しており、企業には一層具体的な目標を伴った行動が期待されています。

成果事例

低炭素性能に優れた建物づくり

— 産業技術総合研究所 北海道センター 熱源設備改修プロジェクト

産業技術総合研究所（産総研）は、産業技術の幅広い分野における様々な技術開発を総合的に行っている、日本最大級の研究機関となる国立研究開発法人です。日本メックスは、2020年に北海道センターの主要施設であるG1棟の機械・熱源設備の改修を担いました。

研究所では様々な研究設備やICT機器などが稼働しています。冷暖房といった空調設備を支える熱源設備は、稼働上重要であると同時に、建物のCO₂の主要な排出源であり、その効率的な設備設計が求められます。機械室のレイアウトや各フロアへの配管などを工夫し熱源ロスを抑えることは勿論、熱源機の温水を不凍液方式に変更し冬季の消費電力を抑制するなど、業務・地域特性に沿った対策を提案。エネルギー効率の改善を実現しました。なお工事内容は3D化したCADソフトでの視覚化や各種書面の電子化、タブレット端末での確認といったデジタル技術を積極的に活用し、お客様とともに建物づくりのDXを推進した

点も特徴です。これらの結果、お客様の求める省エネ性能を満たす設備更新を、新型コロナウイルス感染症による制限下でも安全かつ納期内に実施できました。

IMPACT
ON SDGs

日本メックスの目指す社会インパクト

- ▶ 日本の経済基盤の低炭素化
- ▶ お客様の環境負荷軽減

CSRテーマ3 安心・安全なコミュニケーション

安心・安全の見守り

なぜ重要か（社会の期待）

先進的で快適な社会は、安心かつ安全な仕組みに裏打ちされていることが必要です。社会を支えるインフラが高度化・ICT化を加速する現在、その安定的な稼働が損なわれることは、経済活動および日常生活に与える影響が深刻なものとなる傾向を強めています。このため、インフラ構築に従事する企業には、運用段階での安全性や安定性を担保する設計や施工、その後のサポート体制を充実させることが強く期待されています。

日本メックスの取り組み

私たち日本メックスは、NTTグループ関連施設を代表とする施工物件を通じ、建物の長寿命化や高信頼化を実現する建物づくりを重視してきました。同時に、その後の設備管理や保全を請け負う企業として、社会インフラや各種の大規模施設を24時間365日見守り、その安定稼働と適切なタイミングでの修繕、設備更新を各地で実施しています。またその実現に向け、自社のセキュリティおよびBCPには細心の注意を払っています。

OUR CSR ACTION

取り組みの柱と優先的に貢献を目指すSDGs

- > インフラの24時間365日管理
(サービス提供体制)
- > 自社のBCP、情報セキュリティの徹底



Target 11.3, 11.b

活動ハイライト CASE 03

社会の持続可能性と強靱性を支える事業

11 住み続けられる
まちづくりを

SDG11 住み続けられるまちづくりを

全ての人々が安全で快適な暮らしを送れる、強靱（レジリエント）で先進的な都市・居住環境を世界に整備し続けることは、途上国だけでなく先進国にも共通する大きな課題となっています。SDG11が目指すものは、利便性と持続可能性に配慮した公共インフラの継続的な刷新に他ならず、社会がICT化を加速する現在、都市を24時間365日見守り、支えることの重要性が高まり続けています。

成果事例

お客様に安心・安全をお届けする

— MECCS NET24センタを中心とした設備管理体制

MECCS NET24センタは、建物総合管理に欠かせない遠隔設備監視および緊急（故障）受付手配サービス、修繕受付を集中受付・管理することでトラブルへの円滑・迅速な対応を実現し、お客様施設の安定稼働にきめ細かく貢献する役割を担っています。

遠隔設備監視手配サービスは、建物に設置した遠隔監視装置からの警報を受信し、建物の管理者への通知を24時間365日実施する業務です。お客様建物への常駐型、ならびにMECCS NET24センタでの統合監視型を通じ、複数拠点の同時監視による効率的な設備管理が可能です。また検知された不具合に対しては緊急手配サービスを速やかに実施します。受付から各種手配完了報告などお客様に代わって実施する同サービスには、同センタの蓄積する履歴や設備データが適切に活用されます。

同センタは1987年の設立以来、多くのお客様の支持を頂いています。特に近年は社会のICT化を背景に管理施

設数を伸ばし、2021年3月現在、6,550物件に至りました。引き続き、重要な都市インフラである建物のレジリエンス向上へとノウハウを蓄積しつつ、全国のサービスネットワークを通じて日本の隅々へとサービス拡大を図ります。

IMPACT
ON SDGs

日本メックスの目指す社会インパクト

- 日本全国を網羅する、保守・管理業務の提供
- 安心・安全な社会の実現

CSRへの取り組み



なぜ重要か（社会の期待）

性別や身体的特徴など、全ての多様性が尊重される社会をつくることと、全ての人々の権利が守られ、生き生きと活躍できる社会をつくること。ダイバーシティ&インクルージョンとディーセントワークは、今や社会の基本的規範です。しかしその実現には課題も多く、一人ひとりの意識変革や制度構築などが各国で急がれています。特に企業には、従業員や取引先に対してこれらを着実に実践するよう求められています。

日本メックスの取り組み

私たち日本メックスは、人権尊重はもちろん、多様性の尊重を、社の重要な価値観と位置づけ、グループ全体で意識醸成と仕組み構築に取り組んできました。特に近年は、女性活躍推進法の施行を踏まえ女性参画の強化に取り組みつつ、多様な特性を持つ社員がやりがいを持ち働きやすい職場を形成するための理解促進、意識醸成、制度などの見直しのため「ダイバーシティ推進室」を設置しました。また、労働安全衛生の強化・徹底も強く推進しています。特に労働安全衛生は新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ重要度がさらに高まっており、全ての職場での取り組みを強化しています。

OUR CSR ACTION

取り組みの柱と優先的に貢献を目指すSDGs

- > ダイバーシティ&インクルージョン
- > ディーセントワークと労働安全衛生
- > 公正な処遇とキャリア開発

5 ジェンダー平等	Target 5.1, 5.4, 5.5
8 経済的豊かさ	Target 8.3, 8.5, 8.8

活動ハイライト CASE 04

生き生きとした職場環境の実現

8 働きがいも
経済成長も

SDG8 働きがいも経済成長も

活力ある経済活動の大前提は、そこに従事する人が公正かつ健康に遇される仕組みが浸透していること。SDG8は、産業の持続的成長の基礎として、ディーセントワークの徹底を重視しています。その実現には企業による従業員や取引先への接し方が極めて大きな要素となるため、企業の率先した行動が求められます。特に2020年以降のウィズコロナの中で、健康維持を促進する仕組みの整備・実践が、極めて重要となっています。

成果事例

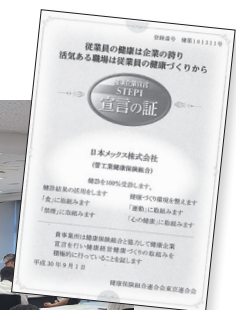
従業員の健康を促進する各種施策

—日本メックスの健康経営、成果と挑戦

日本メックスでは、かねてより、ともに働く人々の健康は、持続的な事業成長の基礎となる重要な経営課題であると位置づけ、管工業健康保険組合と協力して健康企業宣言を行い、健康経営を積極的に推進してきました。「安全推進の基本」を指針とした労働安全衛生の日常的な徹底は勿論、健康診断の定期受診や生活習慣病の予防啓発などを、全社員に向け計画的に実施した結果、日本メックスは、2019年10月に健康保険組合連合会東京連合会より「健康優良企業（健康保険組合）」に認定されています。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ウィズコロナ時代の新しい生活様式での健康経営の必要性が一層高まっています。日本メックスでも、「2021年度事業計画」において「経営基盤強化」施策として「担い手の確保・働き方改革の推進」を位置づけ、経済産業省による「健康経営優良法人（ホワイト500）」認定取得を目標に各種施策を開始しました。具体的には、外部機関も交えた健診

管理システムの利用強化ならびに健康課題の可視化、社員への健康づくりプログラムの拡充などを実施し、健康経営に係るPDCAサイクルを強化しています。これらを通じ、全ての社員が健康に生き生きと働ける職場の実現を目指します。

IMPACT
ON SDGs

日本メックスの目指す社会インパクト

- > 全ての社員の健康推進
- > 労働安全衛生の徹底

会社情報

会社概要

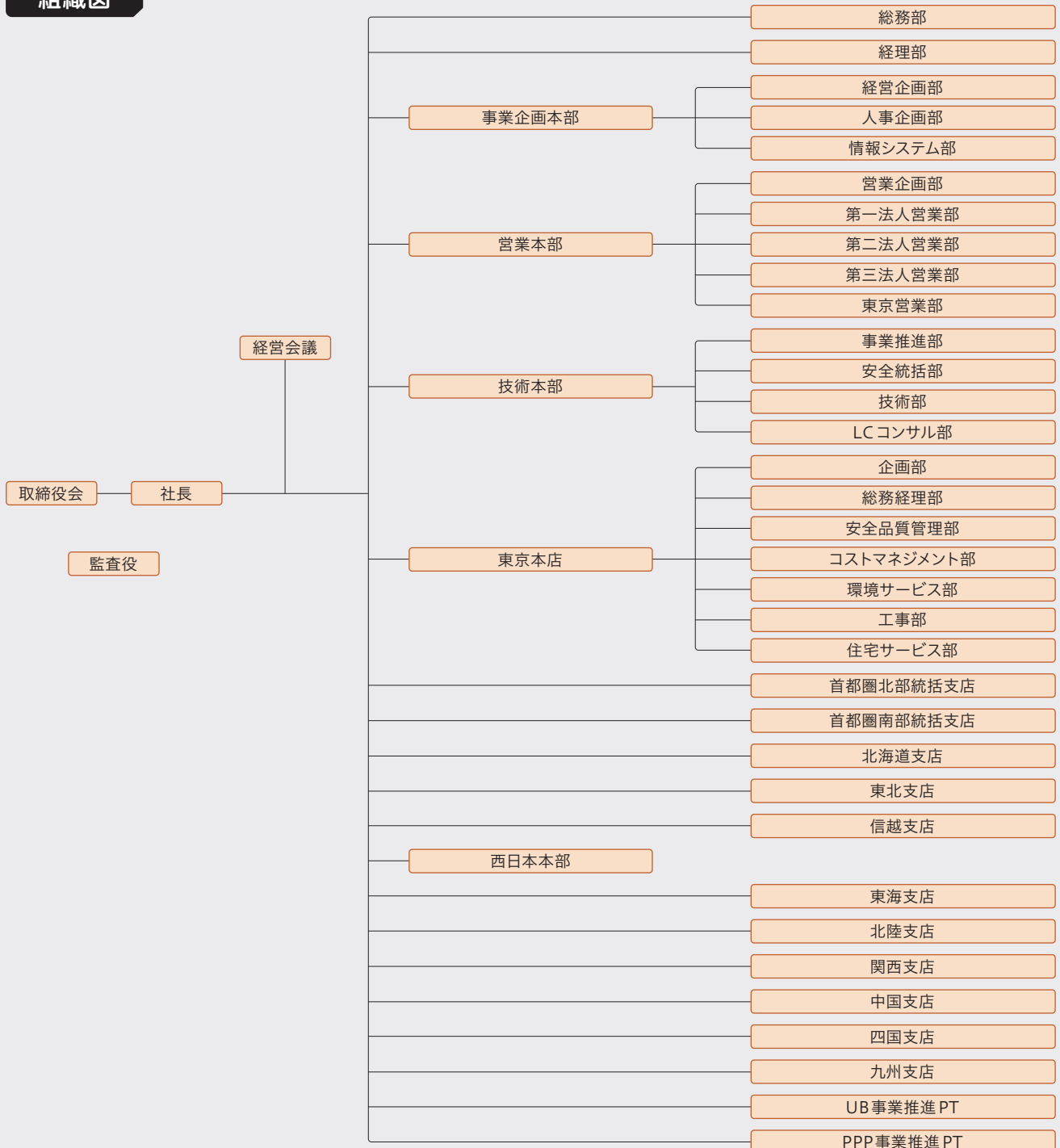
商号 日本メックス株式会社
所在地 〒104-0042
 東京都中央区入船三丁目6番3号
代表者 代表取締役社長 白井 賢
設立 1972年4月25日
資本金 1億2,000万円
社員数 1,513名 (2021年3月31日現在)

役員一覧

(2021年7月1日現在)

代表取締役社長	白井 賢	取締役	加藤 由朗	佐々木 均
専務取締役	武田 和弘		栗林 博之	渡 芳幸
常務取締役	谷島 錦吾		野田 省吾	若杉 薫
	大田 保之		本多 政敏	手島 周正
	辻井 泰人		三浦 勝	
		監査役	井手口 修一	
			石塚 慎二	

組織図



許認可

● 建設業

特定建設業

土木工事業／建築工事業／大工工事業／とび・土工工事業／石工事業／屋根工事業／電気工事業／管工事業／タイル・れんが・ブロック工事業／鋼構造物工事業／舗装工事業／塗装工事業／防水工事業／内装仕上工事業／造園工事業／建具工事業／解体工事業

一般建設業

電気通信工事業／消防施設工事業

● 1級建築士事務所

● 警備業

● マンション管理業

● 宅地建物取引業

● 労働者派遣事業

● 登録電気工事業

● 消防設備業

● 屋外広告業

● 建築物環境衛生総合管理業

● 建築物飲料水貯水槽清掃業

● 酒類販売業

保有資格

● 電気主任技術者(2種・3種)

● 建築物環境衛生管理技術者

● 空気環境測定実施者

● 危険物取扱者(甲種・乙種)

● 1級ボイラー技士

● 1級ビル設備管理技能士

● 浄化槽管理士

● 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者

● 酸素欠乏危険作業主任者

● 警備員指導教育責任者

● エネルギー管理士

● 水質管理責任者

● 高圧ガス製造保安責任者

● 一般毒物劇物取扱者

● 1級ビルクリーニング技能士

● 消防設備士(甲種・乙種)

● 消防設備点検資格者(1種・2種)

● 防火管理者

● 防火設備検査員

● 建設業経理士
(建設業経理事務士含む)

● マンション管理士

● 宅地建物取引士

● 管理業務主任者

● 認定ファシリティマネジャー

● 特別管理産業廃棄物管理責任者

● 衛生管理者

● 1級建築士

● 2級建築士

● 1級建築施工管理技士

● 2級建築施工管理技士

● 2級建設機械施工技士

● 構造設計1級建築士

● 設備設計1級建築士

● 建築積算士

● インテリアプランナー

● 建築仕上診断技術者

[ビルディングドクター(非構造)]

● 特定建築物調査員

● 1級土木施工管理技士

● 2級土木施工管理技士

● 1級造園施工管理技士

● 2級造園施工管理技士

● 1級電気工事施工管理技士

● 2級電気工事施工管理技士

● 電気工事士(1種・2種)

● 1級管工事施工管理技士

● 2級管工事施工管理技士

● 浄化槽設備士

● 建築設備検査員

● 給水装置工事主任技術者

● 下水道排水設備工事責任技術者

● 建築・設備総合管理士

● 建築設備診断技術者

[ビルディングドクター(建築設備)]

● 1級電気通信工事施工管理技士

● 2級電気通信工事施工管理技士

● 電気通信主任技術者

延べ人数：6,668名

(2021年3月31日現在)

グループ会社

株式会社札幌	〒060-0004	札幌市中央区北4条西16丁目1 テルウェル札幌第1ビル	011-676-7800
株式会社ニッソウ	〒300-2633	茨城県つくば市遠東916-4	029-848-0002
株式会社ゼネラルボーサイ	〒104-0042	東京都中央区入船3-6-3	03-5542-0481
株式会社メックスサポート	〒104-0045	東京都中央区築地1-9-2 イセツネビル	03-6264-3972
メックスサービス株式会社	〒104-0042	東京都中央区入船3-6-3	03-5541-5731
株式会社メックステクノ中央	〒104-0043	東京都中央区湊1-8-12 T1ビル	03-5244-9900
株式会社メックステクノ東北	〒983-0852	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-3-10 仙台TBビル	022-290-6841
株式会社メックステクノ東海	〒460-0008	愛知県名古屋市中区栄3-8-8 名古屋平和ビル	052-269-1525
株式会社メックステクノ西日本	〒541-0041	大阪府大阪市中央区北浜1-8-16 大阪証券取引所ビル	06-4707-2010
株式会社メックステクノ中国	〒730-0004	広島県広島市中区東白島町14-15 NTTクレド白島ビル	082-212-2212
株式会社メックステクノ九州	〒812-0013	福岡県福岡市博多区博多駅東2-5-28 博多偕成ビル	092-432-3211

編集方針

日本メックス株式会社では、このたび、当社の事業やCSRに関する考え方および取り組みについて、その全体像を読者の皆様に対し、より広くご理解いただくことを目指して、『日本メックス株式会社コーポレートレポート2021』を発行しました。

本レポートでは、当社の事業の特長・強みや、当社が事業活動を通じて社会や地球環境に対して果たしている役割や取り組みをご報告しています。

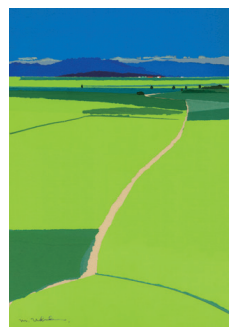
報告対象期間

原則として、2020年4月から2021年3月まで。
ただし、一部情報は直近のものも含まれます。

対象範囲

日本メックス株式会社を中心に、一部グループ会社を含みます。

表紙の絵 「青い道」



誰でも一度はこんな風景を見たことがあると思います。

絶え間なく変化を続ける世界で、日々、より良い未来へと挑み続ける社会の皆様へ、エールを送りたい。道は必ず、穏やかな明日へと続いている。この風景にそのような想いを込めて、表紙に選びました。

はり絵画家：内田 正泰氏 うちだ まさやす

1922年、神奈川県横須賀市生まれ。
横浜高等工業学校（現・横浜国立大学）建築科を卒業後、食品メーカー PR 課勤務を経て、1956年、アド・アートデザイン研究所を設立。以後、はり絵の個展開催、カレンダーのデザイン、横浜の地区センターやスポーツセンターなどの陶壁画も数多く担当し、鎌倉市長谷に常設ギャラリー有り。2019年9月12日永眠。享年97歳。